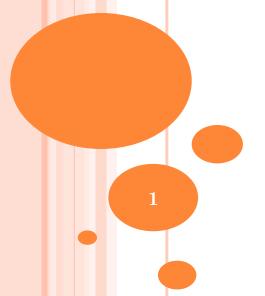
# 地域課題について 地域包括支援センターとしての取り組み

~地域社会とのつながりを求めて~



令和3年2月5日 桑名市南部地域包括支援センター

はじめに

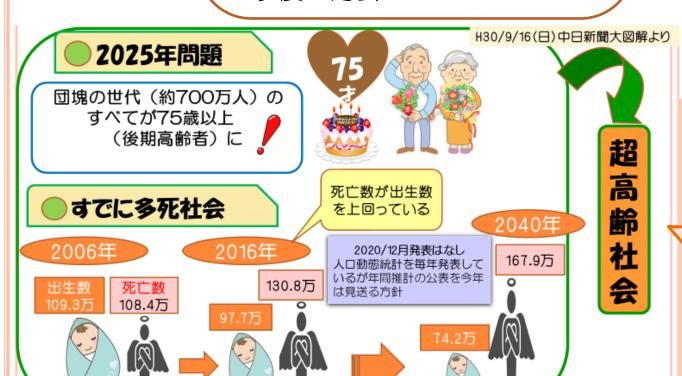
I地域課題

Ⅱ地域課題への取り組み

Ⅲ結果•効果

Ⅳ今後の方針





65歳以上の人口が全人口の何%占めているかで呼び方が変わる。

1970年 • • 7% 高齢化社会

1994年 • • • 14% 高齢社会

2007年 • • • 21% 超高齢社会

2017/10/1→ 27.7%

2020年 • • • 28.7% 超超高齡社会?

2025年··約30% 推測 2060年··約40% 推測

《出典:公益財団法人 長寿科学振興財団 健康長寿ネットより》

### I 地域課題

桑名市日常生活圏域ニーズ調査 『いきいき・くわな』報告書から

令和元年度報告(令和2年3月)

【日常生活圏域の分析結果から】

高齢者像の状況について

1 3 2 1 2 1 3 1 7 1 7 1 7 1 7 1							
	桑名市 全域	東部 圏域	西部 圏域	南部 圏域	北部 圏域	多度 圏域	長島 圏域
認知機能レベル I・ Ⅱ該当者(%)	17.0	18.0	17.7	18.5	14.0	18.2	17.2

	人口	65歳以上	高齢化率	
桑名市全体	141、458人	37、571人	26, 55%	
日進地区	5、876人	1、660人	28, 25%	
益世地区	7、905人	2、239人	28, 32%	
城南地区	8、576人	2、074人	24,18%	

\*認知機能レベル I • II 該当者とは • •

認知設問の結果から、 認知度 I (境界域) • II (軽度)と 判定された高齢者をいう。

### 地域課題

- ①認知機能レベル I II 該当者の出現率が 「南部圏域」が一番高い
- ②南部圏域では 高齢化率が28%を超えて いる地区が、3地区中2地 区あり
- ③高齢者の一人暮らしや 高齢者世帯が多い。

【令和2年9月末現在 桑名市行政区別年齢別人口統計表より】

# \*認知症になっても高齢化率が高くなっても 住み慣れた地域で安心して生活する為に



- 1、幅広い年齢層の地域住民の方へ、認知症について理解を深めてもらうための普及・啓発を進める必要がある。
- 2、地域住民同士のつながりや助け合いが必要(自助・互助)
- 3、認知症サポーターステップアップ講座を修了した方が、ボランティア として地域の住民を支える支援が必要。

### Ⅱ 地域課題への取り組み

- ①認知症の理解を深めるための普及・啓発 (幅広い年齢層の地域住民の方へ)
- ②認知症サポーターステップアップ講座の開催
- ③オレンジカフェを地域で継続的に開催できるような支援 ~認知症サポーターステップアップ講座を修了した方が ボランティアとして参加できる働きかけ~

### Ⅱ-①認知症についての普及・啓発(幅広い年齢層の地域住民の方へ)

## 小・中学校 キッズサポーター養成講座開催







- \*小学校は認知症の説明後、大きな紙芝居を中心に生徒さんと先生と一緒に実演する。 〜紙芝居〜
- 〇「おばちゃんどこ行くの?」
- ○「ごはんまだ?」
- \*中学生は、「認知症を正しく理解する」の後に寸劇〜誤った対応と好ましい対応〜担任の先生と生徒さんに役をお願いする。 〇「夕方になると家を出ていこうとする」 〇「財布が盗まれた」

最後に「おじいちゃんとお年玉」については 孫役の生徒さんがおじいちゃんからお年玉を 2回もらうがその時の対応について全員で考 え発表してもらう。







## 益世・日進・城南小学校 キッズサポーター養成講座アンケートから

認知症は誰でもなる。認知 症の人は大変だけど、これ から助けたい、応援もした い。

ビデオでそんなに強く 言ったらだめだし、大声 で言ったら驚くからだめ、 いろいろ教えてもらって よくわかったからうれし いです。







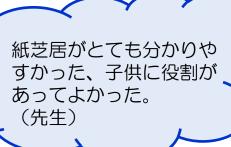
認知症についてよくわかったし、認知症サポーターになれてうれしかった。オレンジリングとロバ隊長がもらえてうれしかった。

認知症について詳しいこと

がよくわかった。今日勉強

したことをいかして認知症

の人に接したい。





【ロバ隊長を子供たち が喜んでいたので継 続していただきたい。 【(先生)

### 明正・陽和 (東部包括と合同) 中学校 キッズサポーター養成講座アンケートから

困っている人がいたら 優しく声をかける。



優しい口調で相 手を安心させる。

あらかじめ認知症の人と の接し方を考えておき、 相手の自尊心を傷つけな いようにする。

困っている人を 積極的に助け、 否定しない。



今日学んだ内容 で、急がせたり 驚かせたりしな いようにする。

学校などで認知症に 関してのポスターを 作ってはる。

否定しないで 受け止める。 説明、スライド、劇、生徒が考える時間、まとめとメリハリがあり短くわかりやすくまとめられていて大変良かった。(先生)

## 小学校・中学校 キッズサポーター養成講座受講者数

	子どもた	とち(人)	教師(人)		
	小学校	中学校	小学校	中学校	
益世小学校4年生	62		2		
日進小学校4年生	46		3		
城南小学校4年生	76		3		
明正中学校1年生		149		7	
陽和中学校1年生 (東部包括と合同で)		117		7	
合計	184	226	8	14	



《ロバ隊長とオレンジリング》

小学校には各地区の地域住民さんたちにボランティアで 184個(小学生分)+8個(小学校の先生分)の「ロバ隊長」を作っていただきました!

## ロバのマスコットは 私たちが作りました!

#### お便り



益世地区住民→益世小へ 日進地区住民→日進小へ 益世地区在住の地域の皆さんが、 城南地区住民→城南小へ 益世小学校の認知症サポーター養成講座を受講したみなさんに

一針、一針心を込めて、ロバのマスコットを作成してくれました。 認知症になっても、周りの皆さんの理解や手助けがあれば、住み慣れた家で暮らし続けることができます。

認知症の人は「一人では無理です」 介護者の方は「独りでは無理です」

みんなでできることを考えながら、少しの手助けがあれば、家で生活することができます。 認知症になって、何もできないわけではありません。 その人の感情(心)は生きています。

認知症について勉強してもらったので これからは

- 1.前から
- 2. 笑顔で
- 3.ゆっくりと
- 4.わかりやすい言葉で
- 5.短い文章で
- 6.優しい態度で

接していきましょうね。

よろしくお願いいたします。



































日進地区住民さん

各小学校に、地域の住民さんが生徒さんのために作成してくれた事を お便りで渡す。

住民さんからは「通いの場がお休みになっていたので子供の喜ぶ姿を 想像しながら作った。楽しかった」「子どもが喜んでくれると思うと 嬉しい。少しは役に立てたかな?」という楽しかったという言葉が聞 けた。地域に喜びの輪が広がっていくと感じた。

10



## 住民さんや生活支援コーディネーターとの話し合いの中で・・・

(7/16, 9/24, 10/1, 11/5)

### 【住民さんを交えた話し合い】

- ①民生委員より認知症の対応に困っている地域あり。県外在住の子どもにも相談し、 近隣の人にも知らせ、自治会長や班の人にも認知症サポーター養成講座を受講 してもらうように働きかけた。
- ②声かけ訓練をどうするか?幅広い年齢層の人に認知症について理解してほしい。 益世支え愛の会などボランティアが増えていかない。今後どうしたらよいか?

### 【生活支援コーディネーターとの話し合い】

- ①以前、認知症サポーター養成講座を受講した方や今回(7/3)初めて受講した方を中心に、自分たちの地域を住みやすくするために自分事として考えてもらうには・・・
  - →ステップアップ講座でのグループワークの方法を検討
- ②自分たちができることなどを自発的に話し合う機会を作るために 提供しても良いと言われている場所とのマッチングや地域づくり (益世支え愛の会への参加なども含め)ができないだろうか?
- ③ステップアップ講座を修了した方が、オレンジカフェの定期開催や 認知症サポーター養成講座のお手伝いができる事などを検討。 (修了生の思い、声をつなぐ)
- ④ステップアップ講座を修了した方の活躍の場がどこかにないだろうか?

## 益世地区 ステップアップ講座

		30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計	
認知症サポーター 養成講座(7/3)	男				2		2	405
	女		2		1	7	10 7	12名
ステップアップ講座 1日目(8/17)	男				3	5	8	15名
100 (0/11)	女				3	4	7 7	152
ステップアップ講座	男				2	7	9	
2日目 (8/24)	女				3	3	6	15名

R2/8/17(月)10:00~12:00 益世まちづくり拠点施設 ステップアップ講座 1日目



①講義:認知症の理解を深めよう「認知症の発症リスクを減らす」 南部包括職員

②講演:「認知症の人の思い、家族の思い」認知症の人と家族の会元三重県代表 下野和子氏







R2/8/24(月)10:00~12:00 益世まちづくり拠点施設 ステップアップ講座 2日目



①講義:「地域住民の私たちにできること」 生活支援コーディネーター 竹田皓彦氏

②グループワーク

### グループワークのテーマ:

- ①「私の得意なこと、自慢できること」
- ②「認知症になってもしたいこと、してもらいたいこと」













### アンケート結果より…

- いろんな方と意見交換ができてよかった。 悩みはみんな同じだということも分かっ たし、自分自身成長できた。
- 仲間意識ができてよかった。
- ・各地域の相談できるサポート体制作り。 相談できるところのPRをしたい。
- ゴミ出し支援、話し相手、掃除など手伝い たい。地域のどんなことでも役に立ちたい。
- ・地域ボランティア・災害・子ども食堂等現在進行中。
- 話を聞くことから始まるのかなと思う。

## ボランティアグループ ステップアップ講座





当日、「介護者の思い」を 話して下さった浅川氏が 「四葉のクローバー」を 50個ラミネートして参加 者の方にプレゼント。

R2/11/19 (木) 13:30~15:30 ボランティアグループ ステップアップ講座

		50歳 代	60歳 代	70歳 以上	≣†	
あかつき会 ほっとすペーす	男			1	1,	17夕
いっぽいっぽの会	女	2	4	10	16	176







《修了証の名前も点字》

①講義:認知症の理解を深めよう「認知症の発症リスクを減らす」 南部包括職員

②講演:「認知症の方の家族の思い」 浅川正喜氏(家族)

③講義:「地域住民の私たちにできること」 生活支援コーディネーター 竹田皓彦氏

④グループワーク①「私の得意なこと、自慢できること」②「認知症になってもしたいこと、してもらいたいこと」

益世ステップアップ講座修了 生 男性2名、女性2名の方が、 ボランティアとして参加し、 視覚障害の方の手助けをして 頂いた。

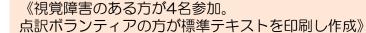
グループワークの時は、意見 を代筆し付箋に記入。「認知 症になってもしたいこと、し てもらいたいこと」は次から 次へと意見が出ていた。ボラ ンティアさんからすごい!と いう声があがっていた。





### アンケート結果より…

- 親について考えるつもりで来たが自分 のことを考えることになった。それが 親の思いにつながるのかなと思った。
- 「今まで通りの生活がしたい」私自身 がそうなのだから手を貸すことができ る時は本人の意思を尊重しながら行動 したい。
- ・今、介護をされているメンバーの方か。 らは、「家族の思いを語ってくださっ た介護者の方の話は身につまされた」 との感想。
- デイサービスで読み語りや紙芝居をし てきたので認サポのお手伝いをしたい。
- 視覚障害者でできること(マッサージ) 奉什)
- ゴミ出しのお手伝い・オレンジカフェ の手伝い



### 住民さんや生活支援コーディネーターとの話し合いの中で・・・ (R1/12月、R2/1月、9/28、11/6、11/16、12/23)

### 【住民さんとの話し合い】

- ①城南地区(大貝須、和泉、小貝須)で「認知症について教えてほしい」「対応に少し困っている」という相談あり。認知症を理解するために認知症 サポーター養成講座を開催してはどうか。住民さんによる寸劇の参加はどうか。 (認知症サポーター養成講座 R2/1/9、1/16、2/13実施)
- ②認知症に関わる制度や介護に関する新しい情報などを聞きたいとの声があった。 ステップアップ講座を開催し認知症の理解やグループで話し合うのはどうか。
- ③大貝須集会所でオレンジカフェを開催したらどうか。



アルツハイマー型認知症と診断され「要支援1」の認定あり。草取りや食事の準備など日常生活はどうにかできている80歳代女性で独居。子供は名古屋市在住で月2回受診介助と買い物支援をしてくれている。 R2/11月からくらしいきいき教室利用。大貝須周辺で通いの場やオレンジカフェがあるといいなぁとつぶやく。「地域との交流はあった方がいい」とステップアップ講座修了生3名が中心となり開催方向。

### 【生活支援コーディネーターとの話し合い】

- ①住民さんに「年を取ったら、認知症になったら」と自分事として感じてもらうには・・・ 困りごと、何が知りたいのか、ご近所さんにできる事など。 (ステップアップ講座に向けて)
- ②地域の皆さんでふくし座談会の提案

## 城南地区 ステップアップ講座

	_							
		30歳 代	40歳 代	50歳 代	60歳 代	70歳 以上	計	
認サポ(大貝須)	男	1		2	3	11	17	25名
R2/1/9	女		1		1	6	8	20-0
認サポ(城南まちづ くり拠点施設)	男	1	1		6	5	13	05/2
スク拠点//R2/1/16	女				8	4	12	25名
認サポ (小貝須)	男		1			1	لـر 2	19名
R2/2/13	女				2	15	17	190
ステップアップ講座 1日目(11/19)	男			1	3	10	14	21名
	女		1	1	2	3	7	216
ステップアップ講座 2日目(11/26)	男	1		1	3	8	13	23名
	女	1	1	1	3	4	10	204

R2/11/19(木)10:00~12:00 城南まちづくり拠点施設 ステップアップ講座1日目



①講義:認知症の理解を深めよう「認知症の発症リスクを減らす」南部包括職員

②講演:「認知症の人の思い、家族の思い」認知症の人と家族の会元三重県代表











### R2/11/26(木) 10:00~12:00 城南まちづくり拠点施設 ステップアップ講座2日目



- ①講義:「地域住民の私たちにできること」 生活支援コーディネーター 竹田皓彦氏
- ②グループワーク

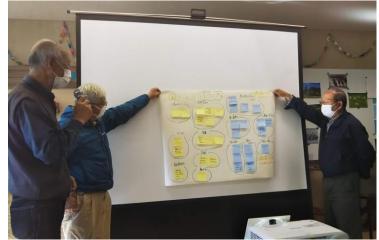
### グループワークのテーマ:

- ①「未来の私へ・・・困りごとは何だろう」
- ②認知症になってもしたいこと、誰かと一緒にならできること。











## アンケートの結果より…

- いろいろそれぞれの思いがありますがつばり地域の絆が大事だと痛感した。
- たくさんの意見を伺う中で自分の中の 整理ができ新たな発見があった。
- ・買い物の手伝い、ゴミ出し支援、庭の草取り、サポーター養成講座の手伝い (寸劇や紙芝居とか)畑で野菜作り支援などできることはしたい。
- ・城南地区を益世や精義地区みたいに助け合い互助協力隊を作るのに卓球カフェを中心に推し進めたらいいなと思った。
- 町内での活動(行事)に参加をして つながりを作る。



自分自身のケア (生きがいづくり、健康づくり)

生活支援コーディ ネーター竹田氏が 城南地区ステップ アップ講座のみで 使用したスライド

互助

みんなの支え合い (近所同士の助け合い、ボランティア活動)

共助

介護保険や医療保険などのサービス (デイサービスやヘルパー等、社会保険制度)

自助・互助の 重要性について 説明 (地域のつながりと 助け合い)

公助

行政による支援 (高齢者福祉、生活保護などの行政による支援)

地域のみなさんでふくし座談会をしませんか?

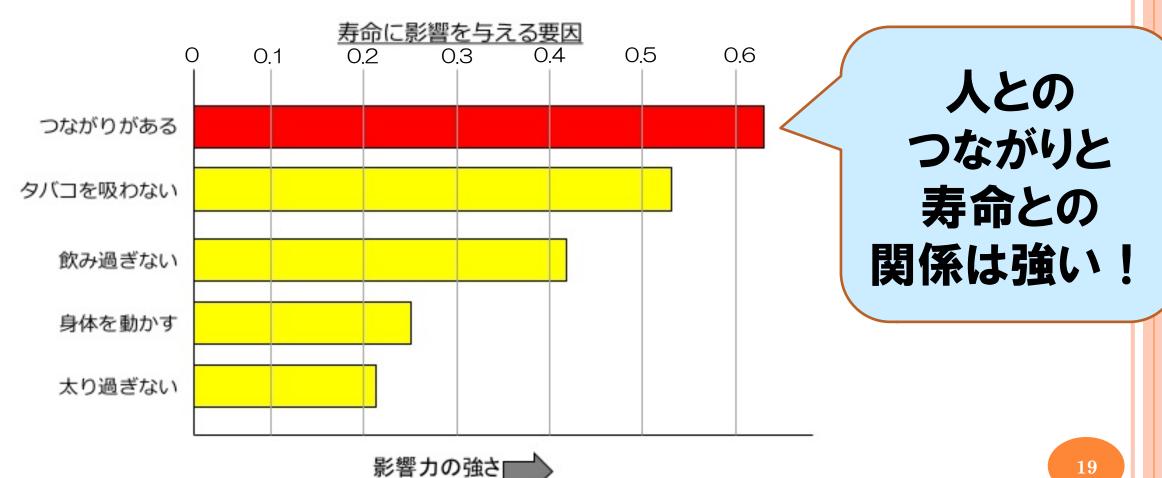
## ふくし座談会とは

- 地域のこまりごとを地域住民で話し合って把握する場です
- ・地域のことは、地域住民が一番ご存知です
- ・いつまでも安心して住み続けられる地域をつくるために

18

## ここで!参考資料1

## 「つながり」が最も寿命に影響する



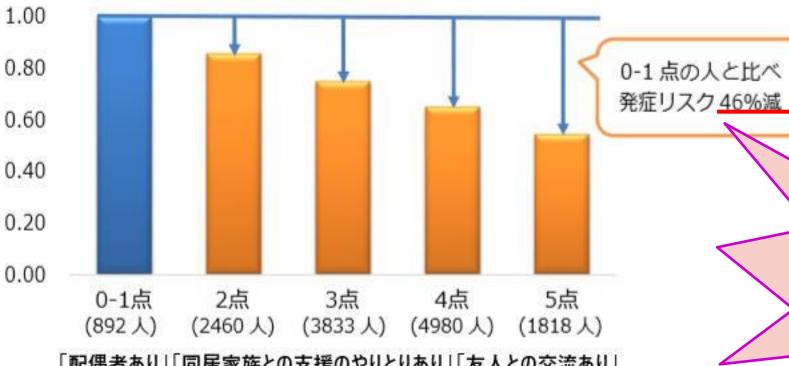
出典: 『友だちの数で寿命はきまる』 (石川 2014)

Holt-LunstadJ.Smith TB, Layton JB (2010). Plos Med. 7:7; e1000316.

# 参考資料2

1.20

### 社会的つながりの多様性得点と認知症発症リスク



「配偶者あり」「同居家族との支援のやりとりあり」「友人との交流あり」 「地域のグループ活動への参加あり」「就労あり」の5項目を集計し、 「0-1点」と比べた「2点」「3点」「4点」「5点」の認知症発症リスクを推定。

出典:国立長寿医療研究センター(2017年11月 報道発表) 《65歳以上13984名を対象に約10年間の追跡データを解析》 高齢者は「社会とのつながり」 (親しい人との支援のやりとり や交流、地域への参加や就労) が多様であるほど、認知症の発 症リスクが低下し、最大で 46%低下するという研究を国 立長寿医療研究センターなどが まとめた。

社会との さまざまな つながりが

重要

20



## オレンジカフェでの様子

### ~ステップアップ講座修了した方の活躍の場に~

善 西 寺 9/5







《ステップアップ講座修了生 男性1名女性2名参加》









21

《ステップアップ講座修了生 女性1名参加》







移動販売による駄菓子の販売

「オレンジカフェ・通いの場」 として近所の人が利用しやすい ように「コミュニティハウス 縁! のスタッフの方と打ち合わ せをする。 (10/31, 11/5, 11/17, 12/5)

ステップアップ講座修了生で お手伝いをしたいと希望される人に 声をかけて、役割を持ってもらう。

### 《ステップアップ講座修了生 男性2名女性1名参加》

皆さんと昔話で盛り上がり、駄菓子も懐かしくて孫に買って帰った。 お手伝いというより自分が楽しかったと連絡あり。





「コミュニティハウス縁」は地域の人が気軽に立ち寄れるようにと R2/8月立ち上げ9月末始動。週2回(火・木)(9:30~14:00) 地域の皆さんの「ご縁で繋がる交流の場」

第1金曜日→地域無料開放

初回無料・2回目以降300円

### 「要介護!」の認定がある方の 社会参加の場となりました!

40年間太極拳を学び、インストラクター もしていた80歳代半ばの女性「要介護1」

「縁」で太極拳を教えて欲しいという人が・ 太極拳を習いたい人 ⇔ 教えられる人 物忘れはあるが、

太極拳の動きは覚えている。 デイサービスを利用しながらも 「縁」に楽しんで参加できるように 周りが支援しはじめたところ。





①認知症についての普及・啓発は小学校3校・中学校2校で開催し、 認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座は介護事業所なども入れ、合わせて 12回実施することができた。少人数でも開催するという動きも良かった。 (「城南こどもクラブ親子への認知症講座」⇒延期。 城南地区のボランティアの方に認知症絵本の読み聞かせや紙芝居をしていただく予定だった)

- ②オレンジカフェを地域で継続的に開催するところも出てきて、近隣の人(認知症があってもなくても)が気軽に立ち寄れる、安心できる居場所ができた。
- ③ステップアップ講座修了生も積極的にオレンジカフェに参加し協力できた。 今後、通いの場や生活支援など幅広い年齢層のボランティアの輪が広がっていけばと 考える。
- ④今年度は、コロナ禍で通いの場など、人の集まる場所での開催が中止となる事が多かった。 閉じこもり傾向、下肢筋力が低下する人もいて、社会とのつながりが大事であるという事が 良くわかった。
- ⑤日進地区では、コロナ禍でほとんどの通いの場、オレンジカフェ、認知症サポーター養成講座 が中止となった。この地区では地域住民の方が自宅から通えるところに通いの場がないことも 支援をしていく中で判明した。



### Ⅳ 今後の方針

- 1、「認知症サポーター養成講座」「ステップアップ講座」は今後も継続して開催していく。「認知症になっても住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けられる「共生」の地域づくりを目指していきたい。⇒チームオレンジの活動に向けて! (当事者の方の話をしっかりと聴くように心がける)
- 2、少子高齢社会で一人暮らしや高齢者世帯も多い中、地域での社会的つながりが持てるよう 通いの場やオレンジカフェ、近隣の人との交流を推進していく。 (社会参加による社会的孤立の解消や役割の保持)
- 3、生活支援コーディネーターと協力し、生活支援体制が各地区で整備されていくよう に働きかけていく。
- 4、日進地区で徒歩圏内に通いの場ができる支援をしていく。 (南部圏域連絡会で徒歩圏内に通いの場がない地区を選出し、支援相談員、保健医療課、 生活支援コーディネーターと一緒に、R2/11月からニーズ調査や健康関連のデータ などを持ち寄り検討を始めたところである)

## 南部包括だより



現在、コロナ禍の中皆さまいかがお過ごしでしょうか。感染予防に、各自取り組んでみえる ことと思います。

「新しい生活様式」①身体的距離の確保②マスクの着用③手洗いの実施や「3密(密閉・密集・ 密接)」を避ける等に努めて今後も健康に過ごしていきましょう。

地域包括支援センターは、地域の高齢者の皆様が安心して住み慣れた地域で暮らし続けること ができるよう、様々な相談をお受けしています。

ご近所の○○さん最 近元気がないけれど 大丈夫かしら?



毎日の介護 で疲労困憊。 もう少し自 分の時間が 欲しい わ・・

最近しつこく 勧誘の電話が くるけどどう したらよい の?



コロナでずっ と自宅にいた ら足が弱って しまったみた いだ

地域のために 何かしたい! できることは ないかな?



こんな時はぜひ地域包括支援センターにご相談ください!

城南まちづくり拠点施設で第3水曜日 11:00~12:00 相談室を開設しました。介護や健康の事、認知症に関すること、 老後の心配等どんなことでも相談してくださいね



よく物を無

くすように

なったけど 認知症の始

まりかし

**ら?** 

10/21、11/18、12/16、 令和3年1/20、2/17、3/17



### 地域の取り組み



認知症サポーター 養成講座(7/3)



善西寺MONZEN オレンジカフェ (9/5)



With認知症の時代 ご本人ご家族は、 仲間との出会いと 周りの理解を求め ています。

〈認知症の人と家族の会 下野和子さんの講演>



認知症ステップアップ講座 (8/17,8/24)

・1日目は認知症の理解を深める。そして、 認知症の人や家族の思いを知る。 ・2日目は「誰もが安心して暮らせるまち づくりのためにできることを考えよう」を テーマにグループワークを実施しました。



修了証

「善西寺 MONZEN」

益世

「十念寺」 10/22(木)

「城南まちづくり拠点施設」

詳細は直接南部包括 までご連絡ください

# 城南



開催します。地域の住民さんに協力して頂いて、終了後渡すロバのマスコットを 作成してもらっています。(益世地区の写真は今後ご期待を)



お知らせ

桑名市健(検)診が 11/30までとなっ ています。早めに 受診してください

> 緑色の封筒届 いていません

6月から新しく入職 しました田中しげみ (看護師)と申します。 桑名に移住して|年 目で分からない事ば かりですが皆様よろ しくお願いします。



お問合せ先 桑名市南部地域包括支援センター





## 覧

## 南部包括だより

2021年新年号 (No29号)

あけましておめでとうございます。 南部包括は地域の皆様が、住み慣れ た地域で自分らしい暮らしや社会との つながりがもてるように、多職種や 他機関と連携して支援をしていきます。 今年もよろしくお願いします。 センター長 佐藤美佐子





### 『社会的処方』って知ってますか?



体調が悪くて病院にかかるとお医者さんがお薬を処方してくれるよ うに**社会的処方とは、ストレスや孤立を感じている人に対し、薬** の代わりに「社会とのつながり」を処方することで、薬では解決で きない課題を解決して元気になってもらおうとするものです。 生活の変化があることで健康の向上を目指しています。







孤立している不眠症の人。 お花を育てるのが好きだっ た。

園芸サークルの人たち

「薬」という名の サークル活動を紹介



他にも ・音楽月

・体操 ・ボランティア

など何でも薬に

孤立していた人は元気に! 社会とのつながりは孤立 していた人の支えになる!

例えば・・

精神的に落ち込んで不眠症 になっている人がいたとし ます。この人に、ただ薬を 処方するのではなく、スト レスを生み出している原因 をさぐり、本人にとって、 趣味や生きがいになるサー クル活動やコミュニティな どを紹介します。そこから 社会とつながり、結果スト レスが解消し、不眠解消に つながるといったようなも のです。また、活動してい る人も自分の活動が誰かの ための『薬』になります。



#### 認知症サポーター ステップアップ講座



〈あかつき会ボランティアグループ〉 〈益世〉





〈城南〉 11/19,26





認知症サポーターは、認知症に関する正し い知識と理解をもち、地域や職域で、認知 症の人や家族に対してできる範囲で手助け をする人のことです。

#### オレンジカフェ





〈十念寺〉10/22



#### 〈コミュニティーハウス 縁〉12/15





オレンジカフェは、認知症の人やその家族、地域の 人が情報を共有しお互いに理解し合う場です。 お茶等飲みながらゆっくり過ごしてもらう場所です。

### お問合せ先 桑名市南部地域包括支援センター

*ALALALALALALALAL* 







### 令和2年度 包括の取り組み

〈陽和中学校〉





10/26









## 忍知症キッズ(小学校)。

〈益世小学校〉〈日進小学校〉





### 〈城南小学校〉



いつも包括だよりを読んでいただきありが マスク姿となりました。昨年はコロナ禍の 中で、もがきながらの創意工夫の一年でし たが色々な発見もできました。来年はマス クを外し笑顔で写真に写ることができるこ



とを心から祈りたいと思います。



ご清聴ありがとうございました。 これからも全職員で協力し、 関係機関と連携しながら 地域住民の方が安心して相談できる場 の提供や、特性に配慮した地域づくり を目指していきたいと思います。

南部包括職員一同



